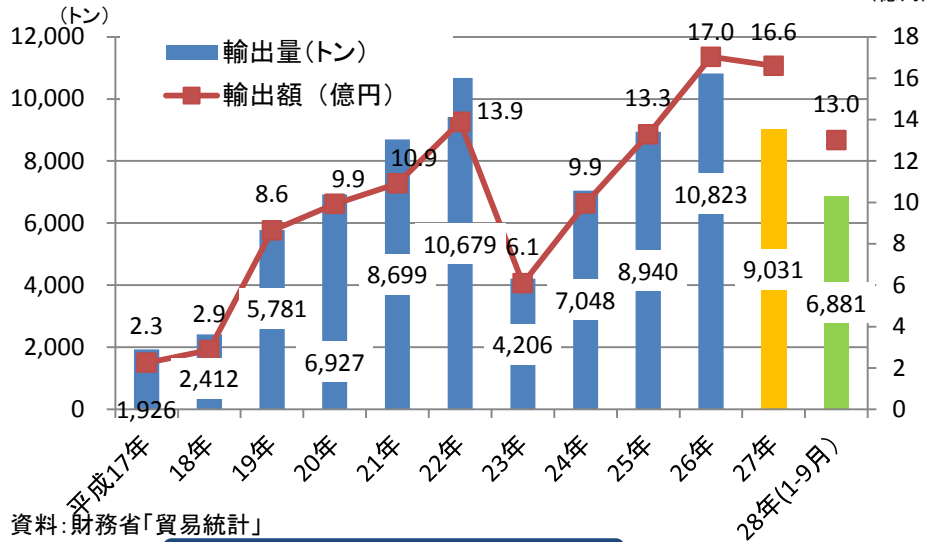


鶏肉の輸出について

日本産鶏肉の輸出実績

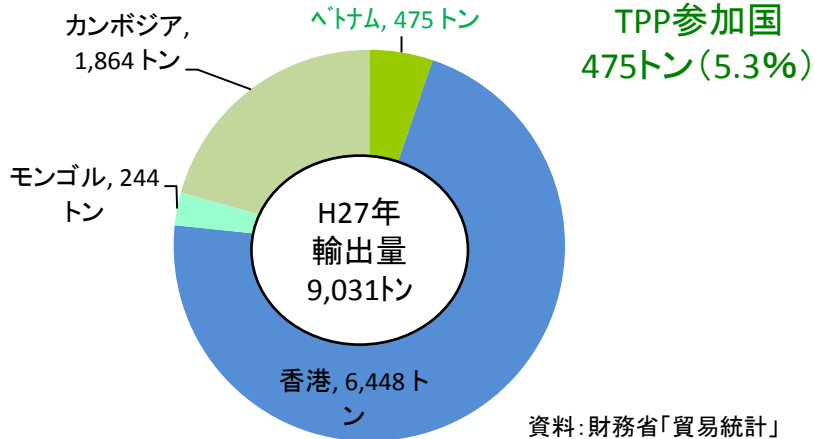
前年比
数量:83%
金額:98%

前年同期比
28年(1-9月)
数量:118%
金額:114%



資料:財務省「貿易統計」

日本産鶏肉の輸出実績(国別)



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 35億円(14,000トン相当)

○ 国別戦略重点国

【輸出可能国】

香港

【動物検疫協議中の国】

シンガポール

輸出国・地域別の施設認定状況 (2016年9月現在)

	香港	ベトナム
施設数	72	76

資料:厚生労働省HP

日本ファンに日本の食文化と併せて売り込むことで、
日本産鶏肉ファンの裾野を広げる

<今後の取組>

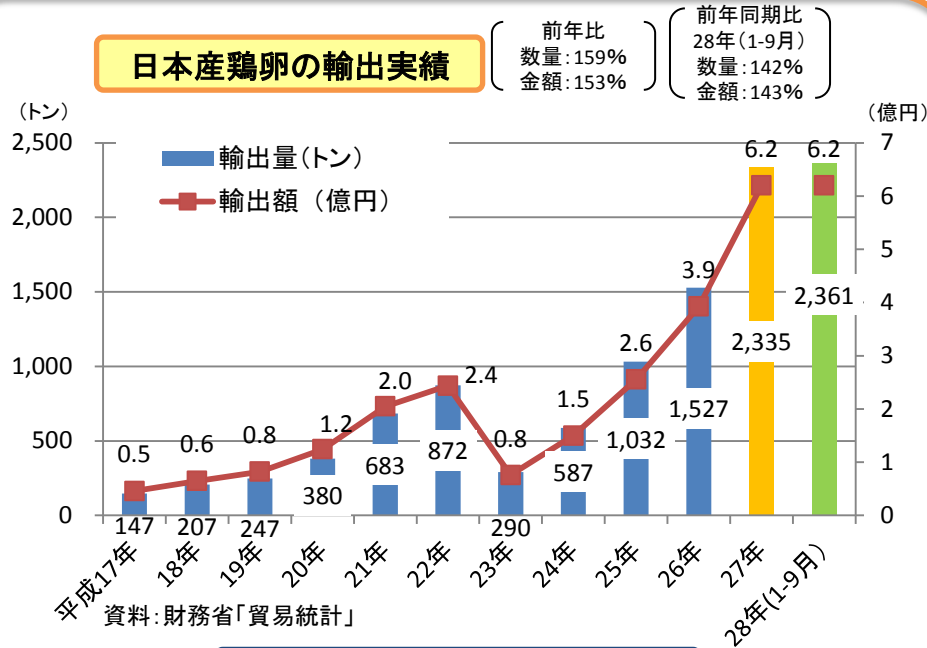
- 「日本ブランド」による販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で鶏肉統一マークの商標登録を目指す)
- 差別化可能な鶏の国内生産基盤の強化(主要国産種鶏の育種改良を継続的に実施)
- 動物検疫協議等の戦略的展開(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域への輸出解禁を目指す)

鶏肉統一マーク

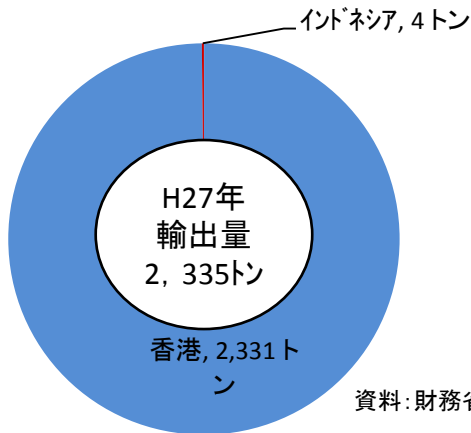


鶏卵の輸出について

日本産鶏卵の輸出実績



日本産鶏卵の輸出実績(国別)



平成31年輸出目標 26億円(10,000トン相当)

○ 国別戦略重点国

【輸出可能国】

香港、シンガポール

【動物検疫協議中の国】

韓国

輸出国・地域別の施設認定状況 (2016年9月現在)

	香港	シンガポール
施設数	113	5

出典:厚生労働省HP

日本のたまごの強みを活かす食べ方を海外に広め、輸出拡大につなげる

<今後の取組>

- 「日本ブランド」による販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で豚統一マークの商標登録を目指す、平成28年度以降3年間で計3か国15人のシェフ等を日本へ招へい)
- 効率的な生産・流通体制の確立(平成28年度以降、半熟卵を船便で輸出するための技術を開発)
- 動物検疫協議等の戦略的展開(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域への輸出解禁を目指す)

鶏卵統一マーク



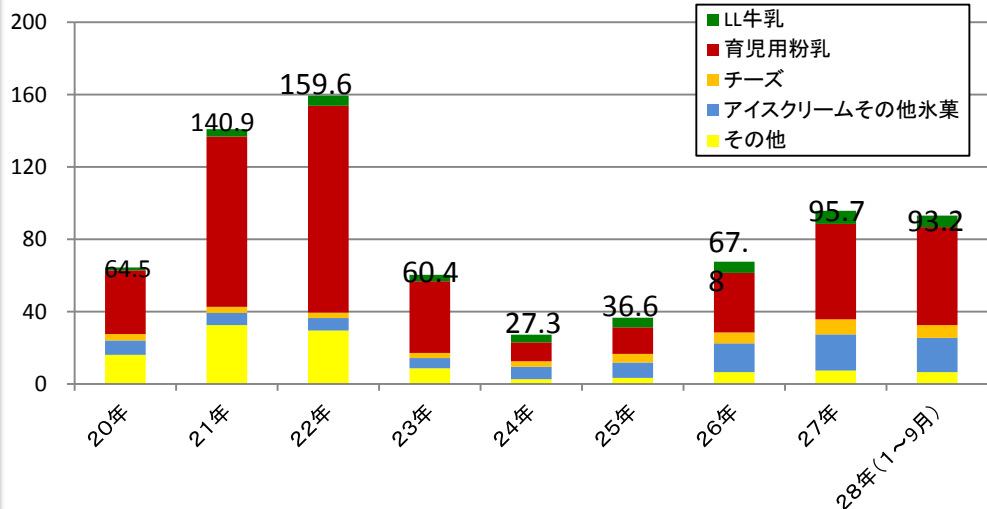
牛乳・乳製品の輸出について

日本産牛乳・乳製品の輸出実績

前年比
27年
141%

前年同期比
28年(1-9月)
132%

(億円)



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 140億円

○国別戦略重点国

香港、台湾、中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム

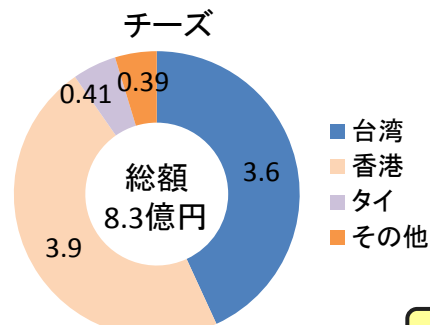
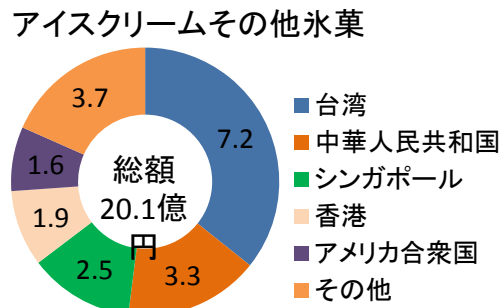
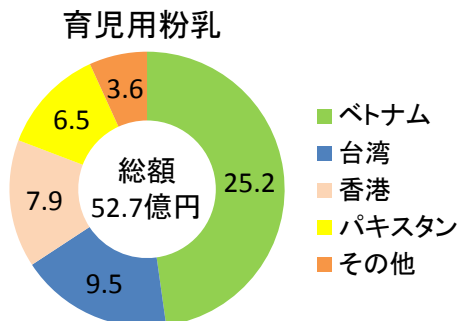
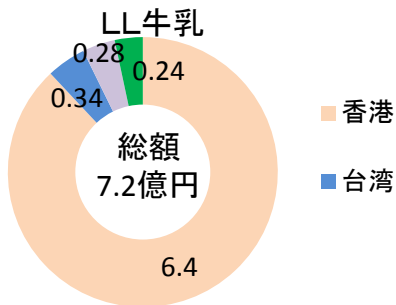
強みを活かした輸出戦略・体制の確立や技術的課題の解決などにより、アジア諸国・地域を中心に日本産牛乳乳製品の浸透と輸出拡大を目指す

<今後の取組>

- 強みを活かした輸出戦略・体制の確立(平成30年度までに全ての輸出重点国・地域において市場調査を実施し、現地の日系小売業者等と連携した円滑な市場開拓等を支援)
- 技術的課題の解決(牛乳の賞味期限を延長し、新鮮さを活かした輸出が可能な体制の整備等)
- 生乳生産量の維持・拡大(平成37年度に生乳生産量750トン)

主要品目の国別輸出額(平成27年)

資料:財務省「貿易統計」

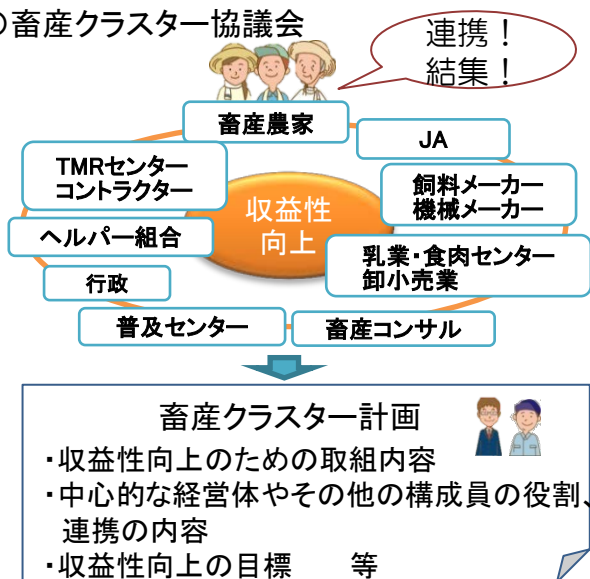


【その他】

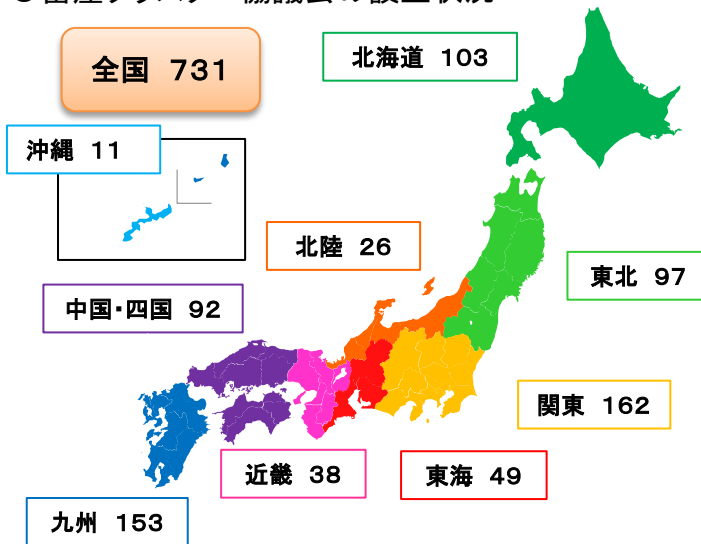
畜産クラスターの支援状況（H26当初～H27補正）

- ・ 畜産農家を始め地域の関係者が連携し、地域の畜産の収益性向上を図る畜産クラスターの取組を推進。
- ・ 収益性向上のための実証の取組、中心的な経営体の施設整備や機械導入を支援。
- ・ 畜種を問わず、様々な取組が開始されている。

○畜産クラスター協議会



○畜産クラスター協議会の設立状況



○協議会が対象としている畜種

畜種	協議会数
酪農	355
肉用牛	399
養豚	205
肉用鶏	76
採卵鶏	141

※ 多くの協議会において、複数の畜種等を対象としているため、合計は左図(全国731)と一致しない。

事業	取り組んだ協議会数
施設整備	281
機械導入	589
実証支援	83

※協議会数は重複有り。

(参考)

		単位:億円	
事業		予算額	要望額
26補正	施設整備	51	76
	機械導入	150	433
27当初	施設整備	75	154
27補正	施設整備	610	448
	機械導入		355
合計		886	1,466